

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅱ-2		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山鹿 隆義 他	C307	t.yamaga	月・火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習Ⅱ-2 では、EBM を実践するために必要な知的スキルとして、医学論文を模擬事例に生かし、作業療法における評価、統合と解釈、焦点化までの習熟を目的とする。また、臨床実習に向けて、模擬患者に対しての今まで学習した専門技術を実践できることを目的とする。 授業は原則、面接授業で実施する。				
学習上の助言	本科目では臨床医学系および作業療法評価学の知識を復習し、体系的に理解しておくこと。 実際場面を想定し、自分で考え、行動できるようにしておくこと。 不明なことは積極的に教員に質問をおこない、その都度明確していくことが必要である。				
教科書	OT 評価ポケット手帳 編:濱口豊太 ヒューマン・プレス ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版— 障害者福祉研究会編集 中央法規 【2冊指定】				
参考書	PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編。金原出版 PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編。金原出版				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	医学論文を検索でき、批判的吟味をして、事例に応用できる。		HSU (5)、OT (2)、OT (3)		
②	作業療法実践の模擬的場面で、作業療法技術を展開できる。		OT (1)、OT (2)、OT (3)		
③	身体障害・老年期領域の事例に関して評価計画が立案できる。		OT (2)、OT (3)		
④	身体障害・老年期領域の事例に関して情報・評価が吟味できる。		OT (2)、OT (3)		
⑤	身体障害・老年期領域の事例に関して、ICF をもちいて統合と解釈・焦点化ができる。		OT (2)、OT (3)		
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション OSCE について	講義・演習	事後：配布資料を復習する 後期の学習計画の立案	1	
2	身体障害作業療法に関する実技演習	GW	臨床を想定した実技練習	2	
3	精神障害作業療法に関する実技演習	GW	臨床を想定した実技練習	2	
4	老年期作業療法に関する実技演習	GW	臨床を想定した実技練習	2	
5	総合的実技演習	GW	臨床を想定した実技練習	2	
6	事例基盤型学習 (身体)：疾患の理解と評価計画の立案	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	2	
7	事例基盤型学習 (身体)：情報・評価結果の吟味と解釈	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
8	事例基盤型学習 (身体)：ICF による統合と解釈	各教員について演習	事前：ICF の分類と図化 事後：ICF の解釈	2	
9	事例基盤型学習 (身体)：生活障害の焦点化	各教員について演習	事前：生活障害の焦点化 事後：レポート完成	3	
10	OSCE	小テスト	事前：実技練習 事後：実技の復習	4	
11	事例基盤型学習 (老年)：疾患の理解と評価計画の立案	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	2	
12	事例基盤型学習 (老年)：情報・評価結果の吟味と解釈 1	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
13	事例基盤型学習 (老年)：情報・評価結果の吟味と解釈 2	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
14	事例基盤型学習 (老年)：ICF による統合と解釈	各教員について演習	事前：ICF の分類と図化 事後：ICF の解釈	2	
15	事例基盤型学習 (老年)：生活障害の焦点化	各教員について演習	事前：生活障害の焦点化 事後：レポート完成	3	
試	定期試験は行わない	試験			

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		50	50	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	15	0	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	15	0	0	0	15
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①		実技試験で、作業療法検査・測定の基本的な技量および治療の基本的な技量についての習熟度を問う。			試験後に実施	
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	身体障害と老年期領域の模擬事例について、作業療法評価の過程をレポートにまとめる。レポートをまとめる過程やレポートの内容をルーブリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。			各演習で実施	
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎山鹿隆義、中西康祐、小沢健一、榎田哲弥、浅野克俊、池谷政直、海保享代、渡辺俊太郎</p> <p>授業形態：この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。</p> <p>演習グループは、前期の演習の習熟度によって、授業効果が最適化するようにグループ編成を行う。</p> <p>履修に関して：この科目の単位修得が臨床実習Ⅰの履修要件である。</p> <p>教員の実務経験：本科目の担当教員は5年以上の臨床業務経験がある。</p> <p>実践的授業の内容：配布資料と併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る</p>							